



はまっこ

平成30年9月3日

岸和田市立浜小学校 校長だより No.6

実りの多い2学期に

記録的に暑かった夏休みも終わり、今日から、子どもたちの元気な声が小学校に戻ってきました。

特に、夏休み中、大きな事故もなく過ごせたことがまず何よりでした。山口県では、2歳の男の子が3日間行方不明になり、安否が気遣われていたところ、78歳の男性ボランティアが無事発見し、大きな話題となりました。「今の自分があるのは周囲のおかげ。社会に貢献したい。」「人の命より重いものはない。尊い命が助かってよかった。」という男性のことに、深い共感と尊敬の念を抱きました。こんな風に、美しく、潔く年を重ねたいものです。



また、8月は、高校野球では熱戦に次ぐ熱戦、そしてインドネシアで開催されたアジア大会では、連日、日本人選手が活躍する姿に声援を送っていた人も多かったのではないのでしょうか。幾度もあったであろう言うに言われぬ困難を乗り越えて、あこがれの舞台に立ち、自分の持てる力を出し切ったときの充実感あふれる表情ほどすがすがしいものではありません。「元気と勇気」をいくつももらいました。

さて、2学期は、学校のほうも大きな行事が続きます。秋祭りが終わるとすぐに、運動会、そのあと、6年生の修学旅行、5年生の漁業体験、そして校内音楽会。まずは、何と云っても、運動会に向けて、子どもたちといっしょに、しっかり取り組みたいと思います。お祭りもあるので大変でしょうが、学級や学校がひとつにまとまる素晴らしい機会。小学校の運動会は、昨年度までは、中学校で勤務していたため、来賓の立場で見せていただいていたのですが、自分の学校の子どもの運動会となると、楽しみは、またひとしおです。



まだまだ暑い日は、しばらく続くと思いますので、熱中症など体調管理には十分注意し、子どもたちには、本番だけでなく、1時間、1時間の「練習」を大切にしようという声かけをし続けたいと思っています。

どうぞ、ご家庭でもご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

「子は親の鏡」

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない

褒めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

ドロシー・ロー・ノルト著
『子どもが育つ魔法の言葉』より

学校でも、上の文章の
「親」を「教師」に
「家庭」を「学校」に置き換えてみて
時々、振り返りをしたいと思います

子育ては、思うようにならないことも多いですが、
子どもに寄り添い
『子どもの育つ魔法の言葉』を
探し求めて、
子育てを楽しむことも大切ではないかと
わが身を振り返っての実感です。



